

# ふれあい子育てサロン 支援ハンドブック

●社協の「子育て支援」デビュー

支援のための  
8つのステップ

STEP  
1

STEP  
2

STEP  
3

STEP  
4

STEP  
5

STEP  
6

STEP  
7

STEP  
8

社会福祉法人  
東京都社会福祉協議会



# I. 「普通の家庭」の危機

## ◎子育ての担い手が激減◎

高齢者の介護はこれまで家庭が担ってきました。しかし、家庭の介護力が減少し介護を家庭だけに任せることは非常に困難になり、すべての「普通の家庭」を対象とした介護保険制度が出現したのです。

子育ても同様です。家庭の子育ての担い手であった、おじいちゃんやおばあちゃんはいません。いても仕事をしていて子育ての担い手にはならない場合が多いようです。きょうだいも重要な子育ての担い手でしたが、今は少子化のため期待できません。近隣の家同士の子どもの預かり合いやガキ大将集団による「保育」も期待できなくなってきました。

このように子育ての担い手がどんどんいなくなっているなか、母親だけに子育てのすべてがまかされてしまっているのです。「普通の家庭」の子育てが、従来の「支え合いの子育て」から「孤独な子育て」に変わってきています。

## ◎新しい「支え合いの子育て」◎

そこで、新たな「支え合いの子育て」の仕組みを作ることが大切になってきています。その有効な方法の一つが「ふれあい子育てサロン」です。同じライフステージにある人同士が集い、交流することで、情報の交換や悩みの解決、そして預かり合い、支え合う関係を作るわけです。こうした活動により育児不安による幼児虐待の予防や育児のストレス（ストレスの要因）の除去、知識不足による不適切な養育など生活問題発生の予防に高い効果を発揮しています。



## Ⅱ. ふれあい子育てサロンとは？

### ◎ふれあい子育てサロンのイメージ◎

いわゆる子育てサークルや子育てグループ、そして子育てボランティアやNPOなどによる居場所作りなどの活動のうち

#### 「子育てを支えあう、オープンで楽しい住民主体の活動」

を社会福祉協議会では「ふれあい子育てサロン」と呼び支援していきます。

社会福祉協議会の活動支援方法は登録制などの「囲い込み」方式ではなく、オープンな「子育て活動支援センター」としての運営を目指します。

中心となるイメージは下記のとおりですが、そもそも子育て支援のための住民活動は内容、方法、対象、運営主体など広範で多様であることから厳密な定義をすることは避けました。

- 目的は 子育てを支えあう仲間づくり、たまり場づくり
- 対象は 乳幼児とその保護者（妊婦さんも含んでもよい）
- イメージ 明るく、楽しく、オープン、気軽
- 内容は 赤ちゃん体操、リズムあそび、お散歩、季節行事、絵本の読み聞かせ、簡単な工作、そして保護者の情報交換＝おしゃべりなど
- 場所は 集会所、児童館、保育所、公民館、学校の余裕教室、個人宅、公園など（活動で使う物品の置き場の確保も重要です）
- 頻度は 月1回から週数回までいろいろ
- 費用は 実費（1回100円など低額。保険料は参加者負担。）
- だれが 活動の主体は住民のみなさん（保護者によるもの、ボランティアによるもの、NPOによるものなど多様）
- 応援は 支援の主体は社協
- 協力は 児童館、保育所、保健センター、社会教育会館、公民館など

#### 具体的な活動例

- 名称：ティンカーベルサロン（仮称）
- 対象：乳幼児（0歳から3歳程度）とその保護者
- 参加人数：20組ぐらい
- 運営主体：保護者自身、子育てボランティア数人
- 会場：児童館や集会施設など
- 開催日：毎週水曜日
- 時間：11:00～12:30
- 参加費：1回100円（保険料は実費）
- 内容：10:30 11:00 11:30 12:00 12:30

|    |      |                 |      |
|----|------|-----------------|------|
| 準備 | 自由遊び | アンパンマン体操・おはなしなど | 自由遊び |
|----|------|-----------------|------|

\*屋外での活動を中心とした活動パターンもあります

- ヒント：飲み物や簡単な茶菓子は雰囲気なごやかにします



# Ⅲ. 社協が子育てサロン

## 1. 孤独な子育てによる不安等の予防福祉活動である

冒頭にも記しましたが、子育てはこれまで家庭内の構成員や地域の協力によりなってきた。しかし、20～30年ぐらい前から、こうした伝統的な関係が本格的に崩れだし、一般的な家庭（とりわけ「専業主婦のいる家庭」）でも孤独な子育てを余儀なくされているケースが増えています。こうした家庭や地域の機能低下が一般化するなか、子育てに関するストレスが高まり、多様な生活問題に発展することも少なくありません。そこで生活問題の発生を予防するための地域福祉活動として社協の取り組むべき新たな課題として子育て支援が浮上してきたわけです。

## 2. 地域の社会資源の活用が得意である

社協は広範な住民活動とのパイプや、行政とのパイプ、そしてなによりも保健や福祉関係機関・施設等との関わりが強い機関です。こうした住民の力や各種機関・施設の専門性をうまく「子育てサロン」活動につないで、活動の広がりや深まりを推進することが得意です。こうした社会資源をつなぎ、活動やサービス内容の質の向上を図るというチームアプローチの推進のためにも社協の支援は期待されています。

## 3. 住民主体の活動「ふれあいいきいきサロン」の推進に実績とノウハウがある

小地域活動の代表的活動である高齢や障害分野の活動の「ふれあいいきいきサロン」の活動は現在全国で2万箇所を数えるに至っています。こうした活動を支援してきたのは社協です。こうした支援の経験やノウハウを「子育てサロン」に活用してほしいものです。そして住民主体の活動同士のネットワークにより分野を越えた地域福祉活動の担い手の開発も期待できます。ただ、子育て支援活動の分野は活動主体の主体性が強い場合が多く、こうした主体的活動をより生かすためには、社協「主導」ではなく、とりわけ「支援」というスタンスを重視することが重要になります。



# に取り組む5つの理由

## 4. 子育ての仲間づくりの活動(=サロン活動)を支援する社協が増えてきている

これまでの社協はというと、高齢や障害関係の活動が中心で、子どもについてはほとんど取り組みがなかったといっても過言ではない状況です。しかし、地域の中で住民ボランティアや児童委員、当事者としての保護者、NPOなどの自主的な活動が少しずつ広がりを見せてきています。先駆的な取り組みを行っている社協も次第にその数を増やしノウハウの蓄積も始まっています。こうしたことから地域の子育て支援の担い手として社協への期待が高まってきています。

## 5. 子ども家庭福祉活動への取り組み強化のきっかけになる

昭和20~30年代はともかく、その後は社協活動は子ども家庭福祉との接点はあまりなく推移してきました。地域の子ども家庭福祉の関係者との関係も希薄でした。地域福祉の柱の一つとして子ども家庭福祉領域があるにもかかわらず、具体的な取り組みはイベントや行事が中心でお茶を濁した形になっていました。しかし、その間地域の子どもや家庭の問題は、孤独な子育てや虐待、保育、不登校、ひきこもり、非行など山積みになってしまっていました。こうした社協の不得意領域である子どもや家庭の生活問題への取り組みは待った無しの課題になっています。こうした子ども家庭福祉活動への取り組みのきっかけとして「ふれあい子育てサロン」の取り組みを位置づけることが重要です。



# Ⅳ. ボランティアや市民

## —パラダイムシフト=

### ◎7つの「支援」方法◎

「ふれあい子育てサロン」は住民（保護者、ボランティア、NPOなど）の自主的な活動を基本とし、社協はきっかけ作りや側面的支援を行うことが基本となります。具体的には下記7点の支援が中心となります。

#### ① きっかけ作り

支え合いの子育て活動を始めたい人や参加したい人は多くいます。でもその気持ちがあっても始めるための方法がわからなかったり、一緒にやってくれる仲間がいない、運営について相談に乗ってくれる人がいないなどの理由でしり込みする場合がほとんどです。活動の中心になるキーパーソン同士をつなげたり、社協として支援の姿勢を見せるなどちょっとしたきっかけをつくるのが重要な役割の一つです。

#### ② 「場」の紹介

集う「場」の確保は重要です。定期的に安定して使用できる安全な会場の情報を提供することは、意外に重要なポイントとなります。集会施設や公民館、児童館、学校の余裕教室、企業の所有する施設などの情報提供をしたり、住民と機関・施設・団体との調整をしたりすることが社協の力の見せ所です。また、活動に必要な物品の収納スペースを貸してくれる施設であることも「場」の確保との関係では落とせません。従来はこうした「場」の提供には積極的でなかった児童館や学童クラブ、民間の福祉施設、学校の余裕教室などとも交渉して、積極的に「場」を開発することもしていかなければならないでしょう。ただ、その際は「土足で」入り込むようなことはせず、こうした施設や機関と協働活動として、例えば場所の提供は児童館、活動の運営はサロンというように役割を分担して実施するなどの工夫が必要でしょう。

#### ③ 活動のPR

社協の広報媒体にPRを載せるなどの協力はできるでしょう。社協は公益性や信頼度の高い組織です。その社協の広報に活動の紹介が載ることだけで新しく活動を始めたサロンにとっては住民の信頼を勝ち取る絶好の機会となります。そのほか地域の様々な広報媒体を紹介したりすることも有効です。ですが、もっとも有効なのは口コミです。サロンに参加したい人や、一緒にやりたい人などに1人1人声かけするなどの支援をすることが肝要です。

#### ④ 情報の提供

地域で子育て支援の活動に取り組んでいる住民、機関、施設、団体などをつなげ、相互に情報交換をしたり、協力しあう体制を作ることが重要です。こうしたネットワークづくりも社協が出過ぎてはいけません。ネットワークは既存の組織原則とは異なり、非常に緩やかで柔軟な運動主体です。このよさを生かすには社協「主導」ではなく住民「主導」を貫くことがポイントです。



# 活動への支援と同じに

## 「主導」ではなく「支援」

### ⑤ 人材の開発

子育てボランティアの養成講座や保護者などを対象とした「ふれあい子育てサロン」の作り方の講座などが考えられます。また活動のマナーリ化を防ぐリフレッシュのための研修も必要です。ただ、大規模な集合研修方法の講演会は意外に効き目が薄い場合が多いようです。社会教育会館などで取り入れられている自主講座に行政が補助金を出すような方式＝小規模で、活動の担い手が自ら学習課題を設定できるような方式も活用してみてください。

### ⑥ 連携の促進

連携とは関わりのある機関や施設の数が多ければいいというわけではありません。地域の機関や施設、団体等の力をよりよい子育て支援活動ができるためにどう活用するかが問われているのです。そのためには各機関や施設、団体の役割や特徴、そして専門性をよく把握しておくことが前提になります。でも、初めから児童福祉の教科書を丸暗記するような把握の仕方は不要です。「子育てサロン」に付き合いながら、住民と話し合いながら、どんな連携相手が必要か見極めていくなかで実のある連携が生まれてきます。

### ⑦ 支援の拠点はボランティア（市民活動）センターに?!

各区市町村社協にはボランティア（市民活動）センターがあり、住民主体の様々な活動を支援してきています。「ふれあい子育てサロン」のような活動は住民の自由で主体的な活動です。社協に近い人や機関＝身内の団体だけに若干の補助金を出し社協組織のなかに囲い込むのではなく、オープンに幅広い活動に支援できるようにすることが必要になります。そのためには区市町村社協のボランティア（市民活動）センターがこれまで培ってきた「主導」ではない「支援」のためのノウハウが役に立つわけです。こうしたことから「ふれあい子育てサロン」の業務分掌はボランティア（市民活動）センターの所管とするのが望ましいでしょう。ただ、これは一般的な原則で住民の主体性が保障され、囲い込みの活動にならないのであれば、実際の業務分掌は様々な形が考えられます。

#### メッセージ

##### ● 児童館職員からのメッセージ

世田谷区立玉川台児童館 工藤 恵子  
他機関・地域との連携について

活動の中では、時に、社会福祉協議会や仲間だけでは解決できない問題（深刻な子育て不安や虐待・DVなどのケース）に突き当たる場合もあります。そんな時には、身近な専門機関として保健所や児童館を、緊急を要する場合は、児童相談所などの手を借りることも大切です。自分たちだけで問題を抱え込まずに、地域の力を気軽に活用しましょう。

##### ● 保健婦からのメッセージ

東久留米市健康福祉部健康課保健サービス係 保健師 原田 祐子  
行政の保健師として

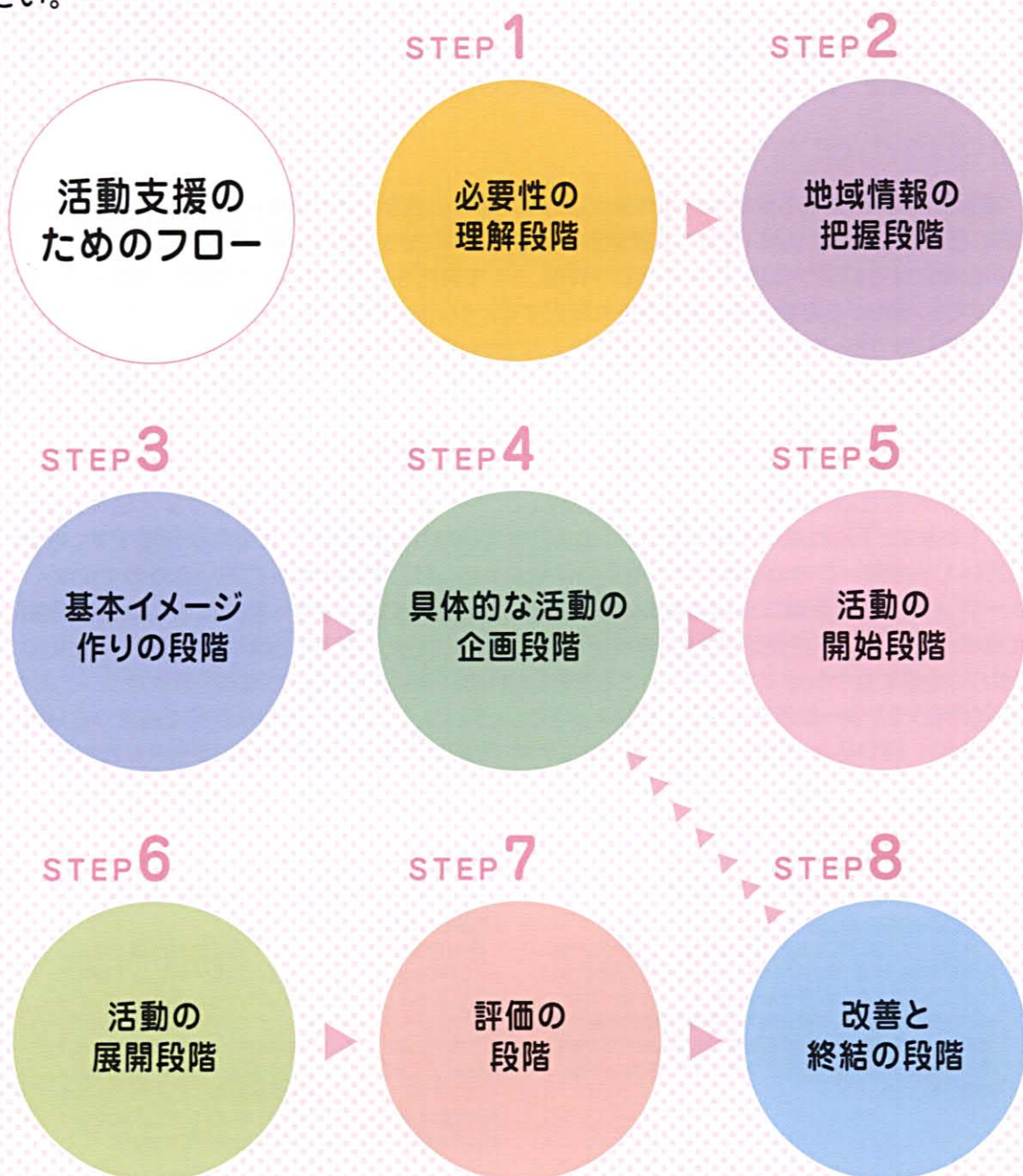
乳幼児健診等に関わっていて感じるのは、様々なグループに自ら参加できる人は良いですが、外に出て交流できない母子をどう支援したら良いかということです。どこかのグループに入ればこの子は伸びるだろうとか、親の負担も軽くなるのではと思う時、地域のグループの情報を保健師として、もっと知っていればと感じます。そこで行政にとって一番の連絡先である社協に、地域や民間団体の情報があればと思います。反対に行政でなければできないことなどは、気軽に相談して下さい。



# V. 子育てサロンの支援方法

## 活動支援のための8つのステップ

代表的なサロン活動への支援のパターンをまとめました。現実の展開はこのとおり進むわけではありません。順番を飛ばしたり、省略したり、前後が入れ替わったりなどが現実の流れとなります。スタンダードなイメージを描いたもので実際の活用はフレキシブルに行ってください。





STEP  
1

# 必要性の理解段階

## 住民の動き

「子育てを支え合う仲間が欲しい」という期待が高まる

## 社協の動き

サロンがなぜ必要か理解する

### ● 「ふれあい子育てサロン支援ハンドブック」でイメージづくり

「孤独な子育て」から保護者や地域による「支え合いの子育て」の実現を目指した活動の一つであることの確認がまず重要です。そして2番目に重要なのは住民の主体的活動が基本であることを確認しておくことです。社協はあくまできっかけづくりや側面的支援の役割を担うことがポイントです。

### ● 子育て家庭の本や資料を読む

子育て家庭の生活事例や実態について書かれた本や、子育て支援活動の事例集や子育てニーズの実態調査や研究報告などを読み社会的な支援課題や方法を理解しておく。

### ● 地域のニーズの傾向を知る

児童育成計画の策定時に行われる子どもや家庭のニーズ調査などにも目を通しておいて下さい。また、対象となる子どもや家庭の数、地域分布などの行政資料にも目を通しましょう。更に、関係機関との情報交換や社協自身の相談窓口で把握されているニーズといったところをあらためて確認しましょう。

## ワンポイントアドバイス

### 「担当する人は」

西郷 泰之 / 大正大学

子育て中の職員が担当することもいいかもしれませんが、体験的に理解しているか、理解できる素地があります。新しい感覚で同世代の保護者たちの子育てニーズを共感的に理解できるわけです。

でも注意したいことがあります。あまりに感情的に理解してしまい、客観的な視点や幅広い視点を見失ってしまうことです。それでは社協組織の内外に子育て支援活動の大事さを伝えられません。必要性をリアルに説明するための事例や支援活動の目標値を決めるためのデータの収集が大切です。

加えて、地域性をどうとらえるかも重要です。金太郎飴のような地域性を考えていない活動支援は不要です。都市部や農村部のちがいが、地域組織の活動の活発さ、そして子育てサークル活動の活発さ、行政や児童館などの活動状況などの把握もしないといけません。



STEP  
2

# 地域情報の把握段階

## 住民の動き

子育て支援の気運が高まり、活動の担い手候補が出てくる

## 社協の動き

地域の子育てニーズをつかみ、キーパーソンを発掘する

### ● 子育てニーズの質の把握

ヒアリング1(利用者)―地域の児童館や保育所等での子育て支援活動の視察と利用者ヒアリングを行います。とりわけ利用者ヒアリングは重要で子育て支援の活動の基本コンセプトづくりに役立ちます。

### ● 活動のイメージ作り

ヒアリング2(先進地域等)―社協で子育てサロン活動を実施しているところの見学とヒアリング(世話人や利用者、社協担当者)を行いましょ。活動の具体的なイメージがはっきりします。

### ● 子育てグループの活動を把握する

地域の子育てグループやサークルなどの活動状況を把握することも重要です。地域の活動パターンがわかり、関わっている人材の発掘の機会ともなります。児童館や社会教育会館や保健センターなどでも活動団体の情報を持っているので取材することも必要でしょう。

### ● 活動の主体となる人を探す

地域の子育てサークルの把握の過程で人材の発掘ができる場合もあります。またボランティアセンターでも子育て支援のボランティア希望者の把握はできます。児童委員や主任児童委員も有力な活動の担い手です。人材発掘には早道はありません、地道な口コミで人の情報を探するのが有効です。その他は子育てに関わっている機関・施設で人を紹介してもらう方法もあるでしょう。

## ワンポイントアドバイス

岡田 康之/多摩市社協

### 「情報交換が大切」

児童福祉分野での、専門性や活動実績の少ない社協が、子育てサロンを立ち上げるには、すでに実績のある、関連施設(公民館・児童館・保育園・保健センターなど)や、関係団体(自主保育グループ・サークル・NPOなど)と事前に情報交換を行うことが有効です。

- ①キーパーソンとなる人材の発掘 ②様々なグループやサークルなど活動状況の把握  
③当事者との橋渡し(ニード調査の窓口) ④コンセプトづくりのアイデアなど

これらの地域情報をもとに、子育て資源マップのようなものを作成し、今後の事業展開や、ネットワーク化に生かすのも良いでしょう。

また、関連施設、関係団体を母体に、「子育てサロン実行委員会」などを組織し、社協内部だけではなく、外部からの参画を積極的に行うことで、活動場所の確保や、地域住民への口コミによるPR・広報活動など、思わぬ効果につながることもあります。



STEP  
3

# 基本イメージ作りの段階

## 住民の動き

キーパーソンたちが  
活動の基本イメージを作る

## 社協の動き

支援計画を作る(組織決定する)

### ● キーパーソンを中心に基本的活動のイメージを作る

キーパーソンとなる住民が集まり、基本的な活動のイメージを話し合いで決めます。社協は話し合いの機会づくりや、話し合いの促進役に徹し、住民の自己決定を尊重します。楽しい、オープンな、気楽な活動活動が基本イメージです。

### ● 社協は支援パターンを整理・支援計画の企画

キーパーソンとの話し合いの中で、社協に期待される支援内容もあわせて具体的に聴取します。下記の社協の6つの役割にそって側面的支援の内容を決めます。

①きっかけ作り ②「場」の紹介 ③活動のPR ④情報の提供 ⑤人材の開発 ⑥連携の促進

### ● 5W1Hで基本的企画を考える

住民による子育て支援のためのオープンな活動について重点的に支援することが基本です。住民は主体的に活動の企画をし、社協はそれを支援するための企画をするという役割分担を行います。両者とも企画を立てる際には5W1Hを活用して基本的な企画を考えましょう。

### ● 社協の活動としてオーソライズする

「普通」の家庭に対し、なぜ社協が取り組む必要があるのかを全面に打ち出した企画書を作りましょう。意外に理解が得られにくい活動です。事務局内や役員組織のなかできちんとした理解を得るようにします。そのためには、わかりやすい資料を作ることと、わかりやすいプレゼンテーションを行うことです。

### ● 支援担当の社協スタッフを特定する

住民への支援活動の窓口となる担当者を主担当と副担当と複数決めることが必要です。担当を決めることで責任の所在をはっきりさせた活動ができますし、担当を複数置くことで住民への支援の向上や、事務局内部での比重が重くなります。

## ワンポイントアドバイス

世田谷区社協地域福祉部

### キーパーソンとの関係

グループの立ち上げ時は、活動を始めようとするキーパーソンにとって多くの不安が伴います。社協担当者の積極的な関わりが必要となる時期です。自主性を尊重しながら、あらゆる面で相談にのってください。社協でできることできないことはありますが、この姿勢と関わりこそ担当者がキーパーソンとの信頼関係を構築するいい機会です。

サロンの内容は、参加者が集まってからでも構いません。あれこれ準備しすぎて、参加者が威圧感を感じてしまう例も。逆に何をしたいか参加者に聞いてみるのもいいですよ。また、参加者が集まるかどうか不安材料の一つです。最初は1組の参加でも構いません、口コミでゆるやかに増えていきます。

参加者が慣れてきたら、参加者におもちゃを持ってきてもらう、好きな絵本を参加者本人に読んでもらう、一緒にバザーを開催するなど、皆で運営を楽しむ方向づけをするのもいいでしょう。キーパーソンの負担も軽減でき、参加者の自発性も促進できます。



# 具体的な活動の企画段階

## 住民の動き

具体的な活動計画を作る

## 社協の動き

具体的で有効な支援内容を考える

### ● 具体的な活動計画を作る

活動の中心になる住民との打ち合せをして住民の活動の具体的な企画を作る手伝いをしましょう。ただ、「教える」「指導する」サロンは厳禁です。あくまで活動の基本は利用者同士の交流と仲間づくりを促進することが主眼になります。企画のために決めておかなければならないことは下記のとおりです。

- ①活動の名称 ②活動の目的 ③活動の対象 ④活動の主体(代表者とメンバー)
- ⑤協力・連携する機関・団体とその内容 ⑥活動の時期・頻度 ⑦年間の流れ
- ⑧活動の内容(1日の流れ) ⑨活動の場 ⑩予算書 ⑪保険の加入

なお、企画にあたっては一つのグループの規模は20組以下と小さいほうがいいでしょう。あまり大きいとメンバー相互の個別化ができません。また、飲み物や簡単なお菓子がほっとできる雰囲気をかもします。

### ● 支援計画を作る

住民活動の支援内容は具体的に住民と話し合ってください。個別のグループごとに具体的な支援内容は異なるでしょう。それぞれの活動にあった上手な支援を計画してください。また、常に住民の活動をモニタリングし、当初の計画にはないことでも必要に応じた柔軟でタイミングを逸しない対応が重要です。

### ワンポイントアドバイス

飯国 晴美 / 国立市社協

#### 国立社協の子育てサロン

国立の場合は、子育てサロン「かるがも」を主催しているのが、社協の婦人母子部会の部員さん達です。その部員さんの中から、子育てサロン「かるがも」の実行委員さんを募り、実行委員約10名程と社協の職員とで企画をしてきました。

国立の場合は、最初は特に年間の予定等は決めずに「まずやってみよう」というところからスタートし、その後参加者の様子を見たり、アンケートを依頼しそのアンケート結果をもとに活動内容の検討をしてきました。

活動の場所は子供達が遊びまわっても大丈夫というぐらいのスペースがあり、なおかつ畳のお部屋にしようということで、福祉会館2階の大広間で行っています。

この子育てサロンは、「今の子育て中のお母さん達が求めていることは何だろう」と考えていた時に、婦人母子部会の部員の方からこのような子育てサロンを開いてみてはどうだろうかという声が出て、実現するに至りました。

ですから、市民の方から出てきた声、社協の活動に結びついていったものでその辺を大切にしたいと思っています。主催している人達も参加者も楽しめる空間をとということを念頭に置き、居心地のよいサロン作りを目指しています。



STEP  
5

## 活動の開始段階

## 住民の動き 活動を始める

## 社協の動き 始めは一緒に参加

## ● 参加者や支援スタッフ集め

企画が最終的に決まったら参加者（必要があればスタッフの追加募集も）を集めます。チラシやポスターを児童館や銀行、郵便局、掲示板、幼稚園などに貼る許可取りの応援や、社協の広報に掲載するなどの協力をしましょう。でも、最も有効な方法は口コミです。まめに声をかけ一人一人丁寧に集めることが重要です。

## ● 活動開始

最初は簡単な活動から始めるといいでしょ。例えば最初は5分程度の幼児体操だけ、あとは子供の自由遊びを見ながらのコーヒータイム（コーヒーでなくてもかまいませんが）で終了でもよいでしょう。社協としては肩の力を抜くためのアドバイスをしたいものです。

## ● 参加者の力を活用する

最初は運営スタッフを中心になってサロン活動を担うのは当然です。でもそれだけではサロン活動はすぐマンネリ化してしまいます。参加者に保育士の経験がある方や児童館に勤めていた方、看護婦や保健婦の資格を持つ方などいるでしょう。また絵本の読み聞かせやペープサートなどが好きな方もいます。こうした保護者参加型の運営が活動を豊かにします。でも、参加者や運営スタッフが重荷に感じない程度の負担の範囲で協力してもらうことがポイントです。こうした活動のヒントを提供することも社協の役割でしょう。

## ● 最初は依存やトラブルが起こるもの

初めて参加する保護者はどんな参加者がいるのかどんなリーダーがいるのかを理解することに関心が向きます。参加者が積極的でないのは自然です。嘆く必要はありません。また、数回目ごろからトラブルも起こるでしょう。これも活動の発達過程では必ず起こることです。グループの発達段階を理解して支援することが重要です。

参考にグループ発達の4つの段階を下記に紹介しておきます。

- ①相互の確認とワーカーやリーダーに依存 ②相互関係の対立を修正  
③まとまりと信頼関係の形成 ④機能的な活動の展開

## ワンポイントアドバイス

西郷 泰之／大正大学

## 「コノブカの7原則?!」

グループワークの原則の活用が結構つかえます。社会福祉の援助技術の一つで、ここではアメリカのグループワークの原則の古典と言えるコノブカの7原則を紹介します。

- ①受容の原則（あるがまま受け止める） ②個別化の原則（個人個人をよく理解する） ③参加の原則（活動に参加するよういざなう）  
④体験の原則（活動を体験する機会を持つ） ⑤葛藤解決の原則（トラブルは解決する） ⑥制限の原則（最低限のルールを作る）  
⑦継続評価の原則（毎日簡単な記録をとる）

これらの点に注意して、毎回の活動を簡単に評価するといいでしょ。でも、無理は禁物です。できる範囲でゆるやかに活用されることをお勧めします。



# 活動の展開段階

## 住民の動き

交流促進のための簡単で楽しい  
プログラムづくり

## 社協の動き

情報提供や学習機会の提供

### ● 活動のマナー化の防止

屋内中心であれば屋外での活動も取り入れることや、保育や幼児教育関係の雑誌などを活用するなどもいいでしょう。でも使える活動のネタや情報は児童館職員に聞くことが最善の方法です。「活動上の相談」という形で児童館職員に持ち掛けてみましょう。快く相談に乗ってくれるはずですよ。また、児童館には小運動会ができる道具や幼児活動で使う備品もありそれらを貸してくれることもあります。

### ● 交流や研修

サロン活動や子育てサークル活動などに取り組んでいる方たちの情報の交流会や運営や活動の促進のための研修会を社協がセットすることが重要です。できれば、こうした研修会の内容は活動に取り組んでいる住民の方に企画してもらうとより有効な企画になります。

### ● 目的の再確認

保護者同士の支え合いの仲間づくりが目的です。また、息抜き(レスパイト)を目的とした一時保育を有償で実施するサロンも地域の支え合いの活動の一つとして新たに始められています。保護者同士や地域の支え合いをより促進することにつながっているかは常に振り返って考える必要があるのでしょ。サロンによってはリーダー中心の「指導」型になってしまうものもあります。時には注意を喚起することも社協の役目でしょう。

### ワンポイントアドバイス

#### 親も楽しみましょー!

子どもたちが、元気にのびのび遊ぶためには、お母さんが、子どもと一緒に楽しみ、ゆったり子どもを見守ることが大切です。子どもたちは、お母さんを目で追いかけて、お母さんに守られていることを確認しながら遊びます。お母さんが、ゆったりした気持ちで子どもに向かい、子育てを楽しめれば、子どもたちにもお母さんの気持ちが伝わり、自分のペースで親から離れて遊び始めます。

親も楽しみ、子どもが自分のペースで遊ぶためには、プログラムに頼るよりも、土・水・風・日差しを感じながら、草木や自然の恵みを利用した外遊びが活動の幅を広げます。時には、お母さんのチャレンジの場(料理・趣味・アウトドア体験など)を取り入れると、会話が弾み楽しくなります。そのような場の話で、子育てのこと、地域の情報などの話を進め、子どもを預けあえるような関係づくりができるといいですね。

工藤 恵子/世田谷区立玉川台児童館





STEP  
7

# 評価の段階

## 住民の動き

反省点ばかりでなく、  
よかった点も確認する

## 社協の動き

支援内容の評価

### ● 3つの評価

一口に評価といっても実際は評価主体ごとに3つに分かれます。運営の主体となる住民による自己評価、支援の主体としての社協の自己評価、そして利用者による評価です。これらのなかで最も重要な評価は利用者の評価でしょう。評価といっても問題点ばかりでなく、良い点もきちんと確認する必要があります。

### ● 支え合いが進んだか

評価の項目や基準はいろいろあるでしょう。しかし、最も重要な評価項目は日々の活動がうまく運営されたかより、子育て中の保護者たちが信頼できる仲間や友人をどれだけ作れたか、そして子どもを預かり合う関係ができたかです。こうした関係作りへのサロンの活動の貢献度をきちんと考えるようにしましょう。

### ● 中心の意見を見極めること

評価にあたってはいろいろな意見が出るでしょう。でもこうした意見をまとめるための原則は2つです。その一つは多数の支持を得ている中心となる意見を把握すること、そして少数意見でも合理的理由のあるものは検討することでしょう。

### ワンポイントアドバイス

浜名 紹代／子育てサークル「わはは」代表

#### 親が育つ場としてのサロン

子どもが赤ちゃんのころは親同士の関係だけですむのですが、子どもが他者にも興味を持つようになると、取ったり取られたり、泣いたり泣かせたりが起こります。それでも親同士がいい関係でいられるためには、「こういう時期も大切なんだよ。早くあぶない時期を抜けられるよう私たちも見守るからね」と言ってくれる第三者の存在が必要です。今の世の中でもっとも必要なものは、柔軟で、人間関係にもタフな子どもを育てることではないでしょうか。そのためにも、親が育つ場としてのサロンは有効です。そしてすでに子どもを見る目や遊ぶ力のある人にはその力を発揮してもらいましょう。そうでない人には、子育てを楽しむ力を養えるようなサポートをしてあげましょう。発達にあった遊びを知ることで、テレビやビデオづけになったり、月謝を払ってなんでもおまかせ、という育児には陥らないですみます。子どもも親も共に育つ場としてのサロンが身近なところであり、そこにいけばいつでも誰か遊べる人に出会えるし、小さな悩みも大きくならないうちに安心できる人に話せれば、それだけでずいぶんと肩の力が抜け、子育てが楽しくなってくるはずですよ。



STEP  
8

# 改善と終結の段階

## 住民の動き

新しい発展方向を考える

## 社協の動き

具体的改善方法や今後の支援方法をはっきりさせる

### ● 改善点と改善方法を考える

評価にもとづきサロン活動の改善点や改善方法を考え、企画を再度作り直すことが必要です。いくら評価をしても評価結果がプログラムに反映されないなら意味がありません。住民による活動の具体的改善、社協による支援方法の具体的改善につなげたいものです。

### ● 行政への施策提案などもする

活動の支援を行う中で行政などに対して注文や提案することも重要です。例えば「子育てサロン」の活動拠点の整備や確保を提案するなど住民の活動の環境作りを地域で推進することも重要でしょう。

### ● ときにはあっさり解散することも

子育てサロンや子育てサークルなどの活動は運営主体の当事者性が高ければ高いほど、つまり保護者が中心の活動であればあるほど消滅する可能性が高い傾向にあります。自分の子どもが幼稚園や小学校に上がると参加しなくなるのもよく理解できます。こうした場合は数年間でサロンが解散という場合も出てきます。引き継ぐ人がいればいいですが、そうでないときは「あっさり解散」でかまわないでしょう。そもそも離合集散の激しい活動ですから無理して継続することはありません。ただ解散する数より新規にできる数の方が多いことが必要ですが。

### ワンポイントアドバイス

#### 子育てサロンの継続性

西郷 泰之/大正大学

子育て中の保護者達は、子どもが乳幼児であるときは孤立した子育てからの脱出を懸命に求めます。ライフステージごとの生活課題ですから当然のことです。でも、幼稚園や小学校に上がると子どもにかかる手間は一段落します。そして、担任の教員という相談や情報提供してくれる支援者にも出会えます。保護者自身も人生設計の新たな段階を迎えることとなります。するとそれまで濃密であった保護者同士の関係に変化が生まれるのです。関係の希薄化です。できれば乳幼児以降も保護者たちの活動が続くことが望ましいのですが、一般的にはライフステージが変わることで終了することが極めて多いのが子育て関係の活動の特徴です。こうした活動の特徴をよく理解した上で、終結か継続かの判断することが求められます。



## VI. 視野は広く

### ◎ほかにもいろいろな「子育て支援活動」が◎

今回中心に取り上げたのは、一般の乳幼児と保護者を対象にしたサロン活動です。地域の子育て支援の活動はこれだけではありません。不登校や、いじめ、引きこもり、10代ママ、ひとり親家庭、非行、保育、虐待など対象となる年齢の幅も問題の質も大きく異なるものがあります。しかし、こうした子どもや家庭福祉の活動への支援も社協が取り組む重要な活動であるはずで、最初はプライオリティの高い問題からでも、社協が参加しやすいものからでもいいでしょう。こうした子どもや家庭のための活動にまずは関わることから始めることが重要です。

### ◎「子ども支援」活動も忘れずに◎

「子育て支援」は一般的には保護者への支援です。でもチャイルドラインの活動のように子ども自身の意見を聞いたり、代弁したりする活動、そして子ども自身の主体的な活動（ピアグループ）など子ども自身による活動を支援する活動もあります。また子どもオンブズパーソンなど権利擁護事業も考えられます。

こうした分野への具体的な支援方法の検討や活動パターンづくりも急がれます。

### ◎子育てサロン自体も発展します◎

子育て支援の活動はNPOになったり、活動を継続させ高齢者関係の活動にも発展したり、広域のネットワークができたり、有償の活動や企業の活動になったり、プレイパークの活動をなど様々な活動に発展します。こうした発展可能性を視野に入れた活動の支援や展開も必要でしょう。



## Ⅶ. 資料：住民配布用パンフレット例

### 子育てサロンをつくりませんか

「子育てについてのちょっとした悩みを相談する相手がいない」

「近くに子どもを安心して遊ばせる場所がない」

「たまには気晴らしもしたい！」

子育て中の親子にはちょっとした悩みがいっぱいあります。  
社協では、子育てをしているおとうさん・おかあさんを応援する  
「子育てサロン」を支援しています。

#### 「子育てサロンとは」?

子育てを支えあう、  
オープンで楽しい住民主体の活動。  
乳幼児対象のリズム遊びをするものから、  
ただ集まっておしゃべりするだけの  
活動もあります。

#### 《支援の内容》

1. 子育てグループづくり
2. 子育てボランティアグループづくり
3. 情報の収集・提供
4. 社会資源の活用支援
5. 活動の場の紹介
6. 印刷機や打合せの場の提供
7. 広報の支援
8. 活動のコンサルテーション

※その他、いろいろご相談下さい。

詳しくは……〇〇市社会福祉協議会  
子育てサロン担当 TEL〇〇〇—〇〇〇〇



子育て家庭支援のための  
「ふれあい・子育てサロン」活動のための調査研究事業

**モデル推進事業地区 推進委員会 委員名簿**

|     | 氏 名     | 所 属 ・ 役 職                      | 執筆分担                                |
|-----|---------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 委員長 | 西 郷 泰 之 | 大正大学人間福祉学科 助教授                 | 本文全体                                |
| 委 員 | 五 嶋 仁   | 世田谷区社会福祉協議会<br>地域福祉部地域福祉推進係 主事 | ——                                  |
| 委 員 | 飯 国 晴 美 | 国立市社会福祉協議会 総務課総務係 主事           | ワンポイント<br>アドバイス(P.11)               |
| 委 員 | 岡 田 康 之 | 多摩市社会福祉協議会 地域福祉推進係 主事          | ワンポイント<br>アドバイス(P.9)                |
| 委 員 | 原 田 祐 子 | 東久留米市健康福祉部議会<br>健康課保健サービス係 保健師 | メッセージ(P.6)                          |
| 委 員 | 工 藤 恵 子 | 世田谷区立玉川台 児童館 児童指導              | メッセージ(P.6)<br>ワンポイント<br>アドバイス(P.13) |
| 委 員 | 浜 名 紹 代 | 子育てサークル「わはは」代表<br>保育士・市家庭福祉員   | ワンポイント<br>アドバイス(P.14)               |
| 委 員 | 宮 澤 成 實 | 東京都社会福祉協議会 福祉部長                | ——                                  |

**ふれあい子育てサロン 支援ハンドブック**

社会福祉・医療事業団(子育て支援基金)助成(事業)

発行年月 平成14年3月

発行者 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1番1号

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635